

岡崎市議会議長 様

支出番号	
------	--

会派名	チャレンジ岡崎
代表者名	杉山 智騎

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 6 年 3 月 29 日提出

活動年月日	令和 6 年 1 月 9 日（火）～ 1 月 11 日（木）		
氏名	杉山 智騎、小田 高之、近藤 敏浩、青山 晃子		
用務先 及び 内 容	1 1月9日	用務先	山形県鶴岡市
		内 容	史跡松ヶ丘開墾場 4 番蚕室活用整備事業
	2 1月10日	用務先	新潟県村上市
		内 容	村上市スケートパーク
	3 1月11日	用務先	群馬県前橋市
		内 容	前橋アーバンデザイン策定とその後の民間主体のまちづくり
	4	用務先	
		内 容	
備 考			

令和5年度 行政視察報告書

令和6年3月29日

チャレンジ岡崎 杉山 智騎
小田 高之
近藤 敏浩
青山 晃子

1. 視察日程

令和6年1月9日(火)～1月11日(木)

2. 視察先及び視察内容

(1) 山形県鶴岡市

史跡松ヶ岡開墾場 4 番蚕室活用整備事業について

(2) 新潟県村上市

村上市スケートパークについて

(3) 群馬県前橋市

前橋アーバンデザイン策定とその後の民間主体のまちづくりについて

3. 内容及び所感・市への提言

i) 内容

■視察先：山形県鶴岡市

1月9日(火) 14:00～16:00

視察議員

杉山智騎、小田高之、近藤敏浩、青山晃子



調査項目:

史跡松ヶ岡開墾場 4 番蚕室活用整備事業について



明治5年頃の松ヶ岡開墾の様子



明治14年頃の松ヶ岡の蚕室群

・施設の概要

➤ 松ヶ岡開墾場の歴史

松ヶ岡開墾場は、戊辰戦争で敗れた旧庄内藩士たち約3,000人が、新たな産業を興し国に報じようと荒野を開墾、桑畑を拓き、国内最大の蚕室群を建設した地。

現在、蚕室は建設当初10棟のうち5棟が建ち並び、本陣や貯桑土蔵などの建造物とともに明治初期の歴史を今に伝える。(養蚕から製品化まで一貫生産にこだわり5棟を解体し製糸工場建築資材とした。)

平成元年には国史跡に指定、平成29年には日本遺産に松ヶ岡開墾場を構成文化財の主軸とする

「サムライゆかりのシルク日本近代化の原風景に
 出会うまち鶴岡へ」が認定されるなど、歴史的・
 文化的価値は高く評価されている。(市内に 3 つ
 の日本遺産がある。)



・施設整備の経緯、背景

➤ 松ヶ岡開墾場の国史跡指定から

平成元年 8 月 国史跡指定 [23,950 m²]
 平成 28 年 7 月 市取得 蚕室 5 棟・土蔵他と敷
 地を取得
 平成 29 年 4 月 日本遺産「サムライゆかりのシ
 ルク」認定
 平成 31 年 3 月 史跡松ヶ岡開墾場保存活用計画
 の策定

➤ 松ヶ岡開墾場の活用状況

4 番蚕室の活用に向けて

市取得以前、4 番蚕室は「庄内農具館」として、
 庄内地域で使用された農具展示が行われてきた。

平成 30 年度策定の史跡松ヶ岡開墾場保存活用
 計画において、4 番蚕室は「松ヶ岡地域を端緒と
 して本市近代化の礎となり今なお発展を続ける絹
 産業に関わる体験施設」に転用する方針とした。

令和 4 年 4 月 14 日、4 番蚕室は「見て、聞いて、
 触って、感じながら学べる 絹織物体験施設
 シルクミライ館」として開館。施設内では、通年、
 コースター作り、シルク生地を使ったくるみボタ
 ン、缶バッジ・ヘアゴムなどの体験を楽しむこと
 ができる。

鶴岡市の「シルクのまち」を醸成することが目
 的の「シルクタウンプロジェクト」の一環で、市
 内高校生がシルク研究に取り組んでいるが、その
 成果を体験できるスペースとして貸し出す。

・運営方法について

- 松ヶ岡産業株式会社が運営している。
- 事業費の概要

国指定史跡松ヶ岡開墾場蚕室活用整備事業

■ 四番蚕室 絹織物体験施設「シルクミライ館」

…本市近代化の礎となった絹産業の歴史と文化に触れ、楽しみながら学
 ぶ体験施設にリニューアル

【令和2年度】

項 目	事業費	国庫補助等
基本設計	715千円	—
実施設計	5,005千円	観光振興事業費補助金
体験製作設計	1,980千円	古民家等観光資源化事業
小 計	7,700千円	

【令和3年度】

項 目	事業費	国庫補助等
建築工事	48,752千円	観光振興事業費補助金
電気設備工事	22,440千円	古民家等観光資源化事業
機械設備工事	14,597千円	※建築工区内、外構部分は
体験製作等委託	13,254千円	社会資本整備総合交付金
工事監理	4,070千円	を充当
小 計	103,113千円	

■ 五番蚕室 蚕室構造見学施設

…蚕室に特化した蚕室特有の建築構造見学施設として公開

【令和3年度】

項 目	事業費	国庫補助等
体験製作等委託	2,197千円	観光振興事業費補助金
小 計	2,197千円	古民家等観光資源化事業

合 計 113,010

■ 特定財源

・社会資本整備総合交付金	1,548千円	/国土交通省/ R3
・観光振興事業費補助金	50,153千円	/国土交通省/ R3
・古民家等観光資源化事業		
合 計	51,701千円	

・市民の声(評価・要望)

概ね好評。

施設内のレストラン、ワイナリーやショップなど
 魅力ある付帯スペースとなっている。

・現在の課題、今後の展開

ブランディングが課題。日本最北の絹産地で、今
 なお、養蚕から絹織物が出来るまでのすべての工
 程が揃う国内唯一の産地である。サムライたちが
 拓いたシルク産業発祥の地として。館内では
 「kibiso」ブランドのショップを併設。

ii) 所感・岡崎市への提言

【杉山 智騎】

本事業は国指定史跡松ヶ岡開墾場蚕室活用整備事
 業の一環である四番蚕室 絹織物体験施設「シル
 クミライ館」である。まず、鶴岡市の文化や伝統

である鶴岡・庄内シルクに対する熱量が高く、伝承していかななくてはいけないという意識の元、業務を行っている。松ヶ岡開墾場は本陣を含め、展示施設や体験施設などがあり、興味のある方にとっては非常に有益な施設となっている。桜まつり・クラフトフェスを始め、5番蚕室を利用した音楽イベントなどを通じて、施設の認知度向上や多種多様な利用を促している。鶴岡だけでなく日本にとっても非常に大切な歴史的建造物であり日本文化であると考え。広報やアピールについてまだ苦戦しているとのことですが、今後の発展が非常に楽しみな事業であった。本市にも歴史的建造物はいくつかあるが、まだ有効活用できていないものや広報ができていないものも散見されるので、小中学校の教育と積極的に連携させ、岡崎市民の文化となるよう活動していくことを要望いたします。

【小田 高之】

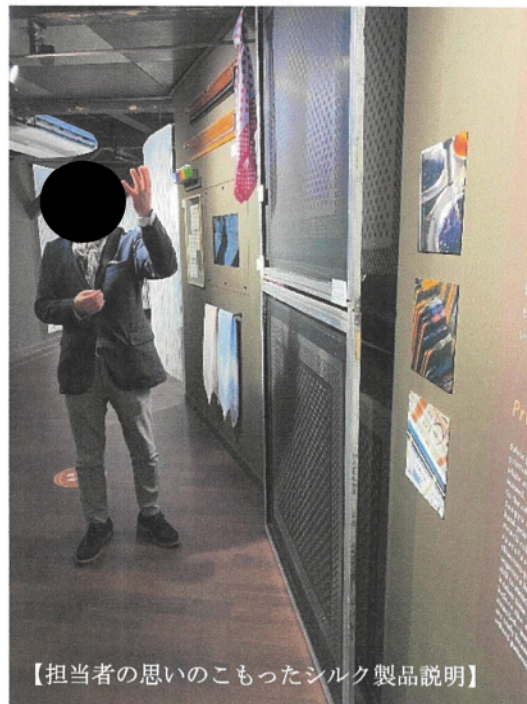
我が街の来歴、ヒストリーをどのように紡ぎ出すのか。その好個の例としてこの施設を拝見しました。佐幕派での敗戦から、時の西郷隆盛による恩情から養蚕産業による復興、そして最盛期を経て、斜陽産業になるも、デザインとマーケティングによる現代産業への脱皮と、物語として味わい深いものがありました。道中、タクシーの運転手さんが「酒井家」という言葉を発した時、それが自らと繋がっているのだという誇りに似たものを漂わせていたのは気のせいだったかもしれませんが。

さて、本市においても、アフター大河が問われています。ここにヒントが得るとすれば、アフター大河、つまり徳川家康以降の江戸時代、近代、現代をつなぐ物語を、いかに紡いでいくのかです。徳川家康では遠すぎるのです。

わたしたちが、どこから来て、どこへ向かうのか。その物語を創り出すことが、次の課題となるでしょう。

【近藤 敏浩】

シルクミライ館で担当者の説明を受けると、その熱意に圧倒される。養蚕産業はSDGsであり、エシカルであり、それらの意義を、未来を担う子どもたちに伝えたいとのことであった。本市においても、思いを熱く伝えられる担当者の出現を望む。



【担当者の思いのこもったシルク製品説明】

【青山 晃子】

養蚕から紡ぎまで全ての工程を一貫して行う場所が無いこと、国産シルクの現状は大変勉強になった。岡崎の場合は木綿だが、繊維産業に一時期の発展を支えられたという土壌は共通している。このシルクミライ館のように文化的価値のある施設があると言われると難しくはあるが、伝承すべきは文化であって、わかりやすい施設が無くてでもできることがあるように思う。現在、岡崎で育つ子ども達の中で岡崎に木綿産業があったこと、綿から糸を紡ぐまでの工程を知っている子がどれだけいるだろうか。悠紀の里が斎田についての伝承施設となっているように、文化継承のための場所を市内の公共施設の中に設けていくことも検討いただきたい。

■視察先：新潟県村上市

1月10日（水） 10:00～

i) 村上市スケートパークについて

・村上市

面積：1,174.17㎢（海岸線：約50km）

人口：約55,000人

鮭・酒・人情（さけ、さけ、なさけ）のまち

2022年北京オリンピック金メダリストの平野歩夢選手は村上市出身

笹川流れマラソン大会、村上・笹川流れ国際トライアスロン大会、村上市競技スポーツ強化事業など、スポーツについて、かなり活発である

・村上市スケートパーク

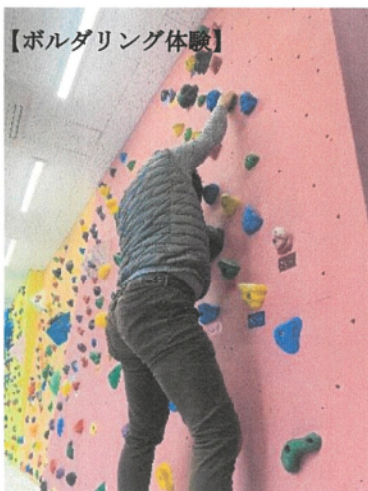
i) 概要

所在地：村上市瀬波温泉三丁目2番22号

敷地面積：17,294.75㎡

建築面積：1,985.41㎡

施設内容：1階 アリーナ（パーク、ストリート）、ボルダリング、多目的室、更衣室、事務室



【ボルダリング体験】

2階 トレーニングコーナー、ランニングコース、観客席290席

駐車場：131台

開館時間：午前9時～午後9時

休館日：年末年始（12月29日～翌年1月3日）

アリーナ：カリフォルニアスケートパーク社監修

サイズ：約1,500㎡ 全面コンクリート

〈パーク〉世界最高峰「ヴァンズ・ツアー」と同様の難易度。高さ1m80cm～3m。

〈ストリート〉様々なレベルの競技者が楽しめる規模と難易度。

ii) 特徴

⇒その1 大規模な木構造！構造体としての木材使用量：690㎡（木材の76%が村上杉）

⇒その2 木の新素材「※CLT（直交集成板）」を使用。

※CLT（Cross Laminated Timber）ひき板の繊維方向を直交に積層接着した木質系材料



【スケートパーク体験】

iii) 経緯

●建設の背景

▶日本海スケートパークの老朽化

▶スケートボードが東京2020オリンピックの正式種目に選定

●建設の課題

▶財源の確保

▶限られたスペースの活用

iv) 事業費の概要

●事業費の概要（財源内訳）

	総事業費	県補助金	起債（過疎債）	助成金（toto）	企業版ふるさと納税	一般財源
工事費	1,414,365	50,493 (3.25%)	1,452,200 (93.49%)	16,000 (1.03%)	11,700 (0.75%)	22,991 (1.48%)
設計費	82,987					
工事監理費	27,000					
用地・地質調査費	29,032					
計	1,553,384	50,493	1,452,200	16,000	11,700	22,991

（単位：千円）

●年間の運営費

▶令和5年度予算額 **43,402 千円**

※事業委託費等含む（市直営で他業務を兼務しているため人件費は除外）

v) 村上市スケートパーク事業の成果・今後の方向性

●step1

「観光とスポーツの結びつき「調査・研究」

「体験型教育旅行」の受入

令和2年度から教育旅行の受入。（R2 年度受入県内小・中学校：4校）宿泊は、瀬波温泉を利用し、観光とスポーツの結びつきを図る。

●step2

「大会・イベント等」の積極的な開催

「各種大会・イベント」の開催

第5回日本スケートボード選手権大会

DAMN AM JAPAN

●step3

ジュニア世代の育成

「教室」「スクール」の開催

学校授業で体験利用

スケートボードを始めたい（初心者）を対象に定期的（毎週）にスケートボード教室を開催

スラックライン、ボルダリングについては、不定期に体験スクールを開催。

●step4

アスリートの育成拠点 ナショナルチームの誘致
ナショナルチーム合宿誘致

日本代表合宿、台湾代表、大韓民国ローラースポーツ連盟、ナショナルチームとの交流事業

●step5

交流人口の拡大・地域経済の活性化

〈目標内容〉「オリパラ・レガシー」として注目が集まる「スケートボードの聖地化」を図り、交流人口と経済的効果を創出

〈具体目標〉官民一体となった推進組織「スポーツコミッション」が中心となり、スケートボードの国内拠点を活かし、施設の継続利用・愛好者の増加、キラーコンテンツの創出、育成の拠点化を図る

●Goal スケートボードの**聖地**

ii) 所感・岡崎市への提言

【杉山 智騎】

旧市民会館（日本海スケートパーク）でスケートボードの教室を行っており、その施設の老朽化、そして、東京 2020 オリンピックの正式種目に選定されたことを契機に本事業が開始された。箱もの建設、オリンピックの負の遺産にならないよう様々な取組を学ばせてもらった。行政管理になるとどうしても型にはめないといけないという論理になり、利用しづらいものになってしまうが、村上市では教育委員会や各種団体と協力し、自由度の高い運営を行っている。一番知りたかった「街中でスケートボードを行う人たちの騒音などにつ

いての対策」については、やはり、スケートパーク事業が軌道に乗れば乗るほど街中でスケートボードが行われ、騒音や安全性に対しての苦情が殺到した。その解決策として使用してなかったテニスコートを自由に使えるスケートボード練習場として開放したところ、苦情が一切なくなったとのこと。規制をかけ排除するのではなく、競技者のことを考えての施策に脱帽した。本市も乙川ローラースポーツ場があり、利用者も多く、平日でも賑わいのある空間となっている。今後も利用者や競技者の意見を存分に聞いて、楽しい空間づくり、そして拡大や横展開も視野に事業を進めていってほしい。

【小田 高之】

ハードよりもソフト。施設よりも人。凡庸ながら、そう思いました。どうしても日本有数の屋根付きスケートボードパークに目がいきがちです。確かにすごい。では、これがこの街に不相応なものなのか。この地の歴史は、それを否定しています。オリンピック輩出選手を生み出した、その土壌、カルチャーの上に、この伽藍が建立しているからです。

長年にわたりこの競技に携わる方々の情熱。この競技をなんとか根付かせようとした努力。どれほどのご苦労があったのかわかりません。

本市においても、なにかの施設、それを建てるのは、言い方には気をつけないといけませんが、ある意味では簡単です。お金があればできるからです。でも、それを支える人、カルチャーを創る人々は簡単にはいません。それは、「政策」の外側のことからです。できることは、その芽を早く見つけ、育てることでしょう。それがいつか、実ることを期待しつつ。

【近藤 敏浩】

スケートボード体験 2 時間 500 円、ボルダリング 200 円、とてつもなく安い。市が運営している

にしても安すぎ。運営の指定管理化も念頭にあるとのことである。運営に関しては入り 3100 万円、出 3600 万円であり 500 万円の赤字。しかし、その 500 万の負担で得られる経済効果は計り知れないとのことである。

村上市はスケートボードのメッカ「聖地」としての地位を確立した。本市においても、同様のスポーツ競技なり、それ以外の競技なり、またイベントなり、全国から集客できる事・物を早急に探し、あるいは認め、そのメッカ「聖地」を確立すべきであると感じた。

【青山 晃子】

スケートボード、ボルダリングともに一般の体験価格も安く、市民だけでなく、近隣他市町までを視野にいった関係人口の底上げを図っている。学校の研修旅行プランもつくられており、遠方からの利用もあるとのこと。複数日で組まれる教育旅行は、宿泊だけでなく、市内観光地の周遊にもつながり効果的。スケートボードは騒音などから迷惑にみられがちだが、市民の受け入れは良好だそう。オリンピック金メダリストを輩出したことも影響しているのだろうが、選手だけでなく、行政が一体となって競技自体を育てる気持ちで取り組んできた結果だと感じた。理解し、寄り添い、周りを巻き込み広げていくこと、大きな施設の為ハードにだけ目が行きがちだが、ソフト面での職員の努力が伺える。



【関わりのあるアスリート】

競技人口の外をいかに巻き込むかが重要である、本市でも光を当てていってほしい。

■視察先：群馬県前橋市

《前橋市視察》

1月11日（木）9:30～11:30

前橋市

面積 311.59 km² / 人口 33 万人 /

県庁所在地/中核市

温暖な気候/スローシティ

2010 年をピークに人口は減少局面へ

子育てしながら働ける環境がある都市全国 2 位

i) 調査項目

前橋市アーバンデザイン策定とその後の民間主体のまちづくりについて

・経緯

中心市街地でクリエイター等によるまちづくり活動が進む。それぞれの事業、施策は素晴らしいがビジョンがないまま開発が進んでしまう。

① 官民で議論する

② 可視化、共有化を図る

③ 人を巻き込み、まちづくり組織をつくる

他都市にはない「前橋らしいビジョン」であること、また、市長交代に左右されない将来ビジョンをつくることを目指す。

・計画の考え方

共通の理念に基づき小さなアクションから小さなサイクルを継続しT回す

・計画の位置づけ

民間のアクションを計画にフィードバックするため、既存の行政計画とは独立した位置づけ

・実効性の伴う計画づくり

200 人以上の民間プレイヤー、キーマンの参加による w s 等での意見を反映

・ビジョンプランとアクションプラン

官民で将来像を共有するビジョンプランと、民間のアクションにつなげる具体的な提案であるアクションプランをつくることで、民間主体のエリアマネジメントを実現。

・まちづくりの担い手

民間活力なくして行政は回らない。ビジョン策定前に官民で合意をとった。民間と行政をつなぐ存在として、商工会議所を中心に「太陽の会・前橋デザインコミッション」を立ち上げ。「自分たちの街は自分たちでつくる」という精神もと、市内に拠点を置く起業家有志で結成される。



【視察資料より】

ii) 所感・岡崎市への提言

【杉山 智騎】

本事業は本市の QURUWA プロジェクトと共通点も多く非常に学びの多いものであった。大きな違いは、前橋市は「前橋市アーバンデザイン」を策定したのとほぼ同時期に「前橋デザインコミッション（通称 MDC）」を設立させたことである。この MDC は商工会をメインとする人材で民間団体となっており、2020 年には都市再生推進法人を取得している。「賑わい」や「使い方」などに着目した建築物や公共空間のデザイン指針となるアーバンデザイン・ガイドラインを策定し、市内中

心街の4つのモデルプロジェクトに反映をさせていった。太陽の会や MDC などの民間団体にもアーバンデザインを理解していただき、広瀬川河畔緑地整備や馬場川通りプロジェクトを推進。本市の QURUWA プロジェクトはそれぞれがバラバラで統一されたデザインを感じられない。それぞれの個性を高めるという観点からは良いのかもしれないが、1つの大きなプロジェクトとしては大きな疑問が残る。また前橋市は民間企業や市民が主体となって、まちづくりを行っており、行政はあくまでサポートに徹するという姿勢が見える。本市も民間活力を掲げているが、民間主体という意味ではまだ改善点は多いと感じる。前橋市も中心街から中高生の姿が消えた時代から徐々に取り戻しつつある現状とのことであるので、本市も QURUWA エリアにかつての康生の賑わいを彷彿とさせるような景色を取り戻せるよう市民・住民・来訪者の意見を取り込み、民間主体な動きが起こりやすいような仕組みを考えていただきたい。

【小田 高之】

「前橋市アーバンデザイン」は若手アーティストと旦那衆の存在があった。また民有地が多いからでしょうが、どちらかといえばデザインや人を集める企画などがメインとして走ってきたように感じました。

本市においては、QURUWA 戦略内を占める公共用地のリノベーションと、その後は、一方に若手起業家を育てるリノベーションスクールのような取り組みがあり、他方で、地縁組織を軸にした人、地域の活用を行ってきたと認識しています。

両市の対象エリアの類似性はありますが、「育ってきた環境が違うから」、それぞれに違いがあるのは興味深いところです。

今後に。ということであれば、本市においても対象エリア内の「アーバンデザイン」をどうしていくのが課題でしょう。前橋市さんにおいても、そこはそうで、ガイドラインを策定し、徐々にそ

れが浸透させる戦略であるとのことでした。

ぜひ、この方向性も含めた検討を引き続きされることを期待します。



【近藤 敏浩】

都市計画が進み信号機の数豊富な前橋市であるが、自動車渋滞によるストレスは少なそうと感じた。同じ中核都市、人口 30 万人台の岡崎市との大きな違いはそこであろう。本市の都市計画図には「白抜き」のいわゆる未供用の都市計画道路が多すぎると感じる。

前橋市は其上、最近では公共交通、特にバスも充実しているとのこと。本市はその点も見習いたい。「あるきたくなるまち」にはそこまでの「あし」である「公共交通」の充実がマストである。なぜか。歩いて来る事が可能な人々の消費だけではまちの経済が維持できないから当然である。

国や基礎自治体による押しつけや堅苦しさのない、前橋市アーバンデザインという共通の理念を推進力とし、小さなアクションから小さなサイクルを次々に回し続ける手法は様々な点において類似する本市もなぞるべきと考える。理念も優れ、

資金的に無理のない計画を前にして否定的な考えは皆無であり、称賛しか感じなかった。

【赤煉瓦を配した歩道】



【青山 晃子】

官民での将来像を共有するビジョンプランは、ルールブックではなく、イメージを共有するためのものという位置づけ。建築物や公共空間のデザイン指針を示している。指針はともにわかりやすく、モデルプロジェクトエリアを回ったが、理解と協力を十分に得られているように感じた。方向性は示しつつも、ルールという押し付けでないことから、それぞれの考える余地が生まれ、より前向きな関わり方につながっているように見えた。

【観光客に人気のホテル】



デザインガイドラインも紳士協定であり、提案という位置づけ。制度ありきではなく、尊重される先に制度化の声が上がることを期待しているとのこと。とは言え、見えない部分での職員によるサポート、舵取りにより現状があると思われる。なによりも官民の人間関係が第一であると感じた。本市においてもくるわエリアにおいては官民の連携がうまくとれているように感じる。今後はここからのにじみ出し、関係エリア、人口の増加を期待する。

【アーバンデザイン 街路・交番】

